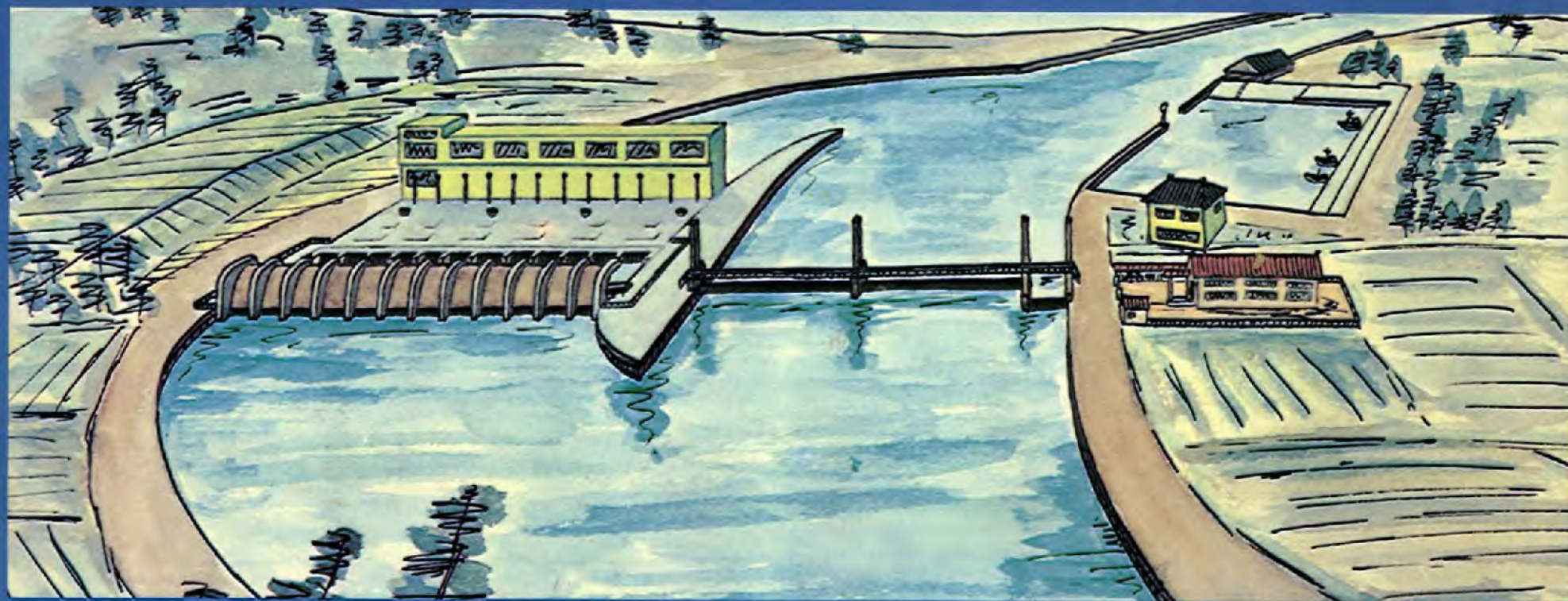


しんかわ



しんかわ

北陸農政局

An aerial photograph showing a vast, flat agricultural landscape. The land is divided into numerous rectangular plots, some of which are green, suggesting crops. A river flows through the lower portion of the image, with a bridge visible. In the background, a range of mountains is visible under a clear sky.

新川農業水利事業 完工記念

昭和54年11月

北陸農政局
新川農業水利事業所

新川の生い立ち

● 文禄時代の西蒲原

西蒲原の展望台ともいえる弥彦山から、広大な平野を貫いて流れる信濃川、西川、新川が良く見える。この地方に伝わるいくつかの古地図も、往昔弥彦山から眺めて描かれたものであろう。これらの古地図が如実に物語り、かつ今も地名に残る多くの瀧々。だが、まだそこには日本海に広がる「しんかわ」はない。

かず多くの瀧の中で「鐙瀧」「田瀧」「大瀧」の三つが大きく、昔からこれを「三瀧」と呼んでいた。「三瀧」の水は西川に注ぎ、信濃川に合流して日本海につながっているが瀧とその周辺一帯は、毎年の融雪時や、豪雨時、西川の遊水池となって氾濫と化した。住民と土地をとりつめた藩政時代、泥沼と貧苦から逃れる術のなかった農民の窮状は今に想像を絶する。

弥彦山の麓、岩室温泉の岩室萬句は、

鍋牛や鍋牛鍋牛、角を出せ鍋牛、

角を出せぬと俵儀の代官所え

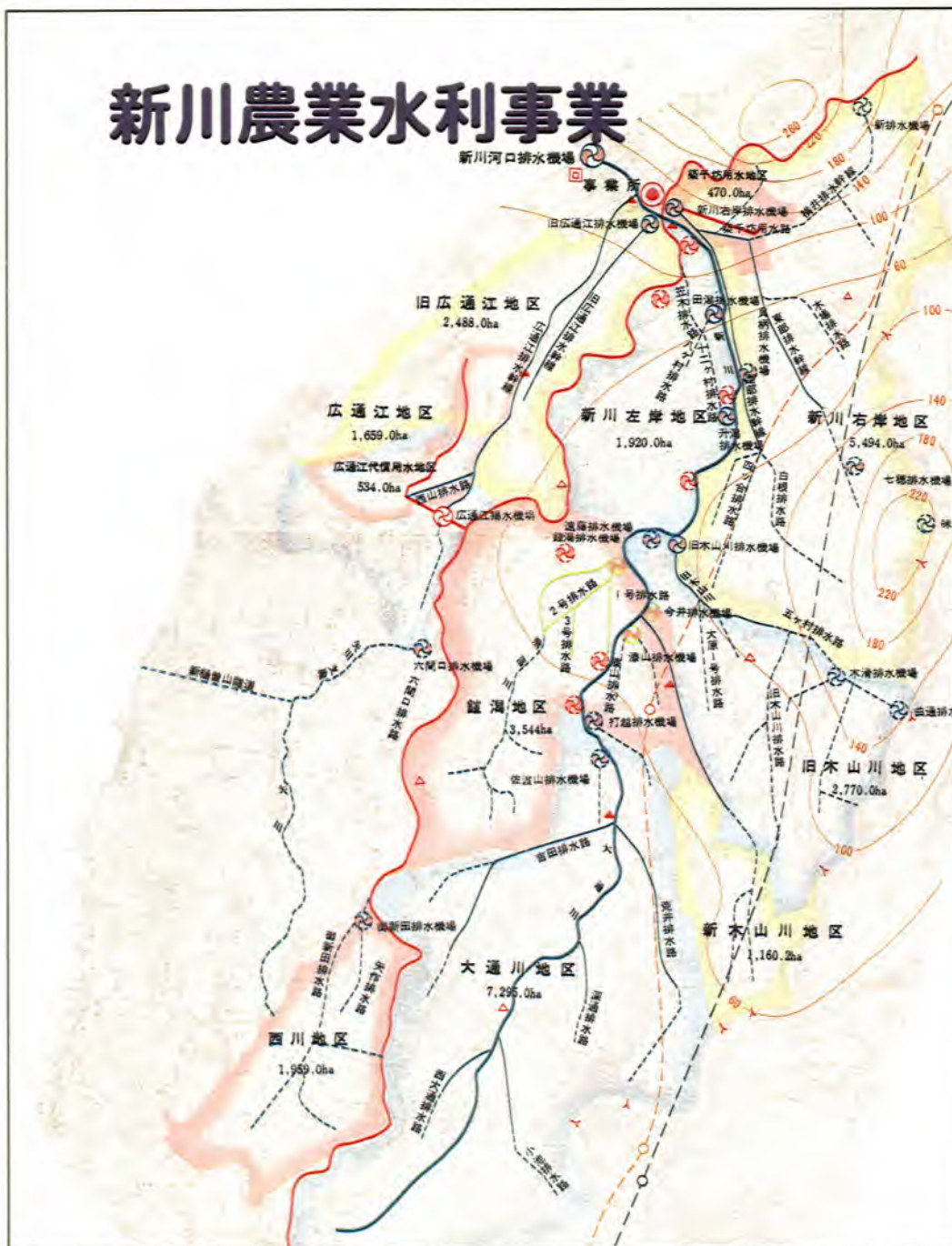
申し出るかいや國平

と唄う。ダイロとは百姓のごとであり、ツノは食料米つまり税金をさすという。

米が経済の基礎であった当時、開田即藩勢拡大の時代背景と重なり、この惨状から抜け出すべく、「三瀧」の水を、西川の底をくぐらせて日本海に吐き出す計画が樹てられ、周辺37ヶ村から幕府に願出たのが延享元年（1744年）である。

この計画に対し、下流の新潟が猛反対。信濃川の水が減って河口の水深が浅くなり舟の出入りにさしつかえるという理由である。で結局、幕府は「三瀧」の水をいまの西蒲原郡黒埼村黒鳥地区から島原地区へ導き、西川へ流さずに直接信濃川へ合流させることで許可した。工事は3年後の延享4年に始まり、翌年完成したが、信濃川からの逆流があつて失敗、6年後には元どおりに埋めてしまった。

新川農業水利事業



西川の底樋、新川開削の大事業が成って以来、それまで、手の下しようがなかった水腐田にも開発の可能性ができた。その可能性を追究して、文政3年(1820年)完成の西川底樋を、その後3回にわたって改造し明治を迎える。

明治22年、水利組合条令の制定、同32年の耕地整理法施行によって、耕地改良事業の補助政策がとられると、もに、明治25年西蒲原郡巻町に日本最初の排水ポンプが出現、近代農業土木の幕明けが到来した。勿論、この当時のポンプは蒸気機関で運転され、今日の排水機に比すべくもないが、低湿地排水の革命であったことに変わりはなく、引きつづいて、鑑潟周辺に続々と導入され、大正初期にはその数16ヶ所に達した。

この地方積年の念願「三潟の悪水排除」は、昭和7年にまず「大潟」が消滅。その後、昭和20年、農地開発営団の手によって田潟排水機場が、翌21年に升潟、曾根排水機場の着工をみたが、工事も半ばの昭和22年に営団閉鎖となり、農林省の国営事業として引継がれ昭和23年5月に3排水機場が竣工した。これが、新川農業水利事業の発端で、このとき「田潟」も消滅したのである。

農地開発営団の事業は3排水機場のみで、新川全域にわたる基本計画はなかったが、農林省引継ぎ後、昭和24年に制定された土地改良法に基く国営事業として、西蒲原全域の抜本的な排水計画が練られ、

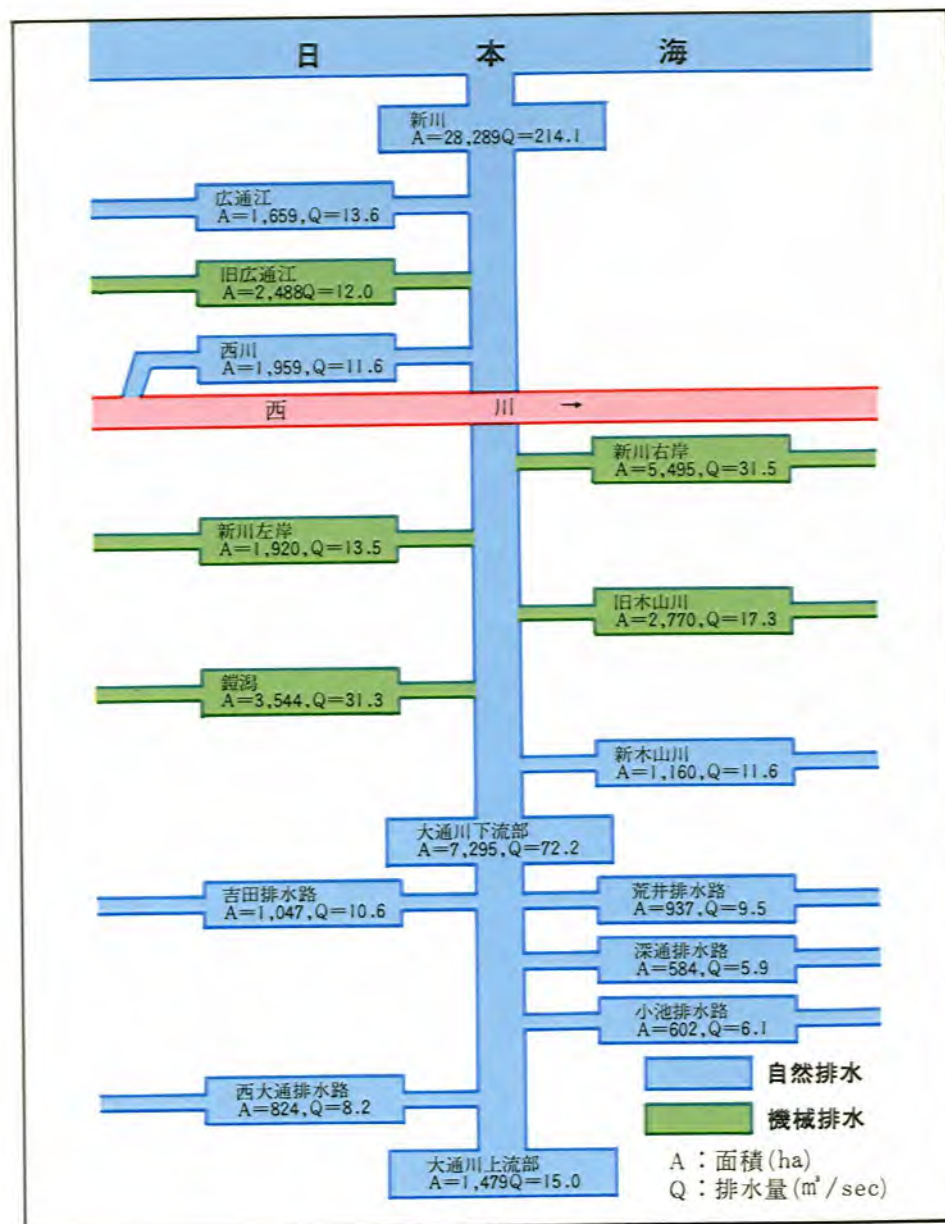
- (イ) 自然排水可能区域は極力自然排水とする。
- (ロ) 洪水水位の上昇を防ぐため、流水を阻害する障害物はすべて撤去する。

(二) 西蒲原全域にわたって排水組織を整備する。

(ホ) 機械排水区では、在来の小規模ポンプを整理統合する。

として昭和26年に国営新川農業水利事業の計画が樹った。その後、32年に第1回、47年に第2回の計画変更を行って、昭和49年3月に全工事を完了したものである。

農地開発営団からの引継ぎを含めて30有余年の年月、軟弱な地盤、平坦なるが故の排水不良、地盤沈下、地震など長い苦闘の歴史で、かつて80年かゝって西川底樋、新川開削のなされた古事と併せ考えると、大地に根ざした土地改良事業の真髄をこゝにみる感が深い。





河口

文政3年（1820）に開削されたという新川河口の今昔



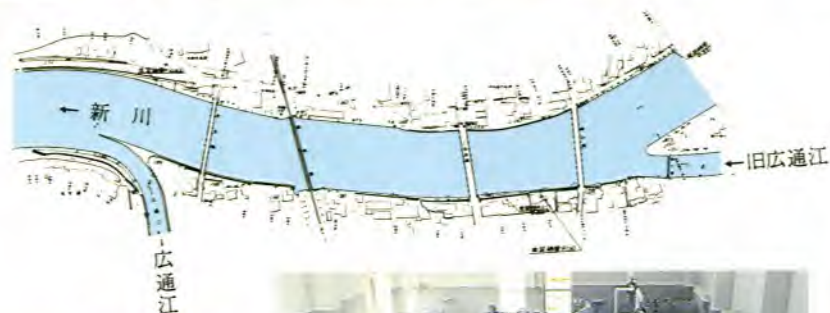
新川下流渚口改良浚渫実況（昭和7年9月）



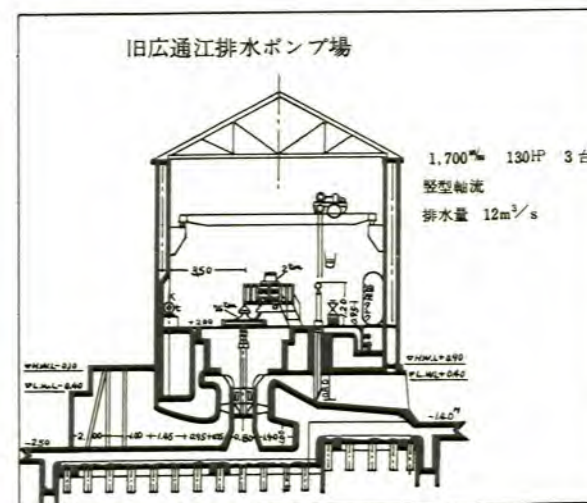
広通江



旧広通江



この排水機場は、事業発足当時（昭和24年）に設置されたが、30年を経て現在の姿に生まれかわっている。

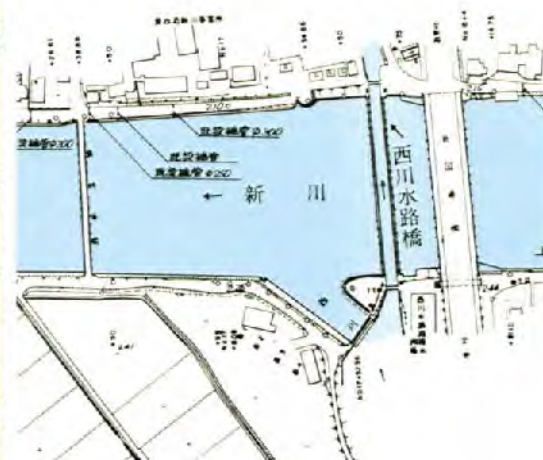


西川水路橋



事業の「カナメ」で、昭和30年10月
に完成した西川水路橋

この水路橋の完成を契機に、新川を始めとする
数多くの排水路、排水機場等の工事が行なわれ、
今日の肥沃な大穀倉地帯、西蒲原平野が出現し
た。



西川

西川は源を信濃川大河津分水に求める西蒲原平野の大動脈である



西川の取入口



県営西川揚水機場
(渇水期補給用)



西川下流部

西川「暗闇」

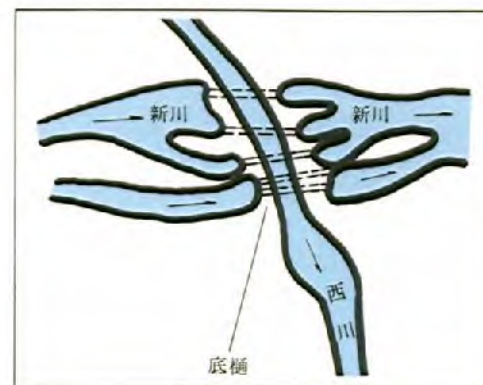
西川と新川の立体交叉は、文政3年（1820年）に底樋が作られて以来、水路橋に代るまでの間4回の改造が行なわれている。

3回目の改造までは、もっぱら、断面の拡大に努め、構造的には、文政3年の木樋を踏襲している。明治42年から始まった第4回の改造でコンクリートの出現となるが、今日の鉄筋コンクリートとは程遠く、疊築工と呼ばれる花崗岩、煉瓦の併用である。とは云え、今の時代でも、その重量感に圧倒されるものがあり、これが世に有名な「西川暗闇」である。

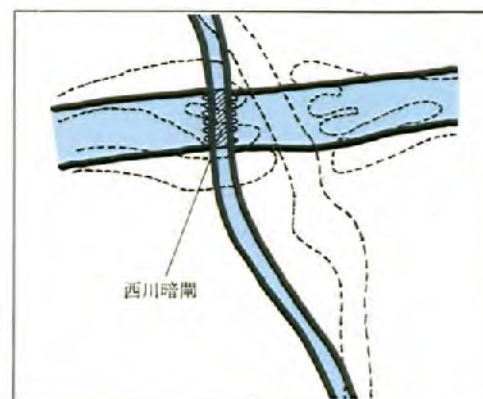
西川底樋改造の年譜

	新川 川市	底 樋						備 考
		巾	高	長	数	構 造	通水断面	
第1次 文政3年（1820）	10間	18尺	4尺	300尺	2	木 造	144平方尺	長岡・村上藩
第2次 文政9年（1826）	15間	〃	〃	228尺	3	〃	216平方尺	農民底樋組合
第3次 元保4年（1830）	25間	〃	〃	〃	5	〃	360平方尺	〃
第4次 慶応3年（1867）	25間	〃	6尺	228尺 216尺	5	〃	540平方尺	土 功 組 合
第5次 大正2年（1912）	67 ^m	〃	10尺	70尺	9	花崗岩、煉瓦 コンクリート	1,323平方尺	新潟県土木部
第6次 昭和30年（1955）	73 ^m	水路橋				鋼、鉄 筋 コンクリート		国営新川農業 水 利 事 業

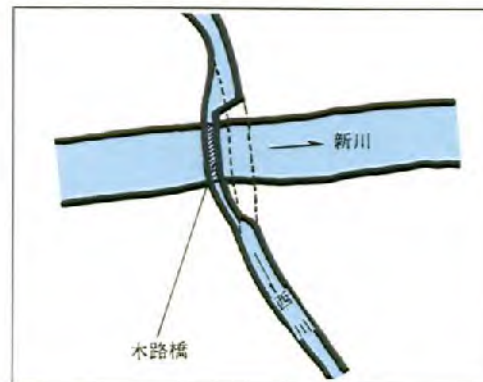
明治42年まで▶



大正2年から昭和30年まで▶



現 在▶

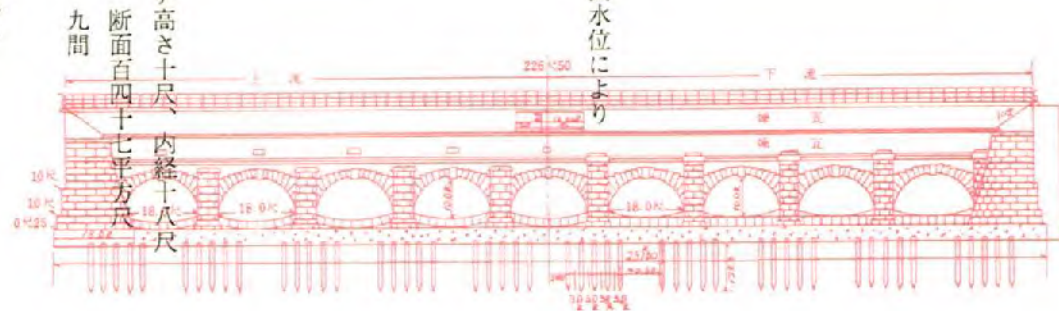




西川暗閘記念碑

西川暗閘

- (一) 洪水量 自明治卅七年 至明治卅九年之観測水位により
 西川 三千七百立方尺
 新川 三千 立方尺
- (二) 水位
 洪水位 西川 十五尺二寸八分
 新川 三尺五寸四分
 低水位 西川 四尺七寸八分
 新川 五寸四分
 両川底之高低差 四尺二寸四分
- (三) 暗閘
 半徑卅尺之円弧をもつフインドートアーチ高さ十尺、内径十八尺
 断面百四十七平方尺
- (四) 費用 貳拾万七千五百貳拾四円
- (五) 工期 自明治四十二年八月 至大正元年八月



暗閘ができる前の「底樋」の模型

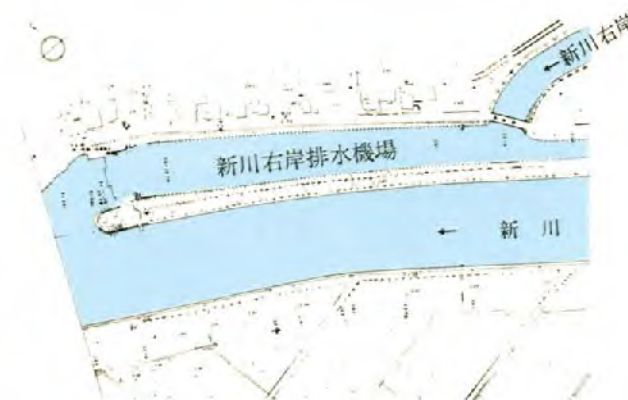
新川右岸



西部幹線排水路



東部幹線排水路



新川左岸 田潟

この排水機場は、次頁の升潟排水機場とともに昭和23年、農地開発営団によって着手されたものであるが、その後、数次にわたる改造を経て昭和53年度に完成した。



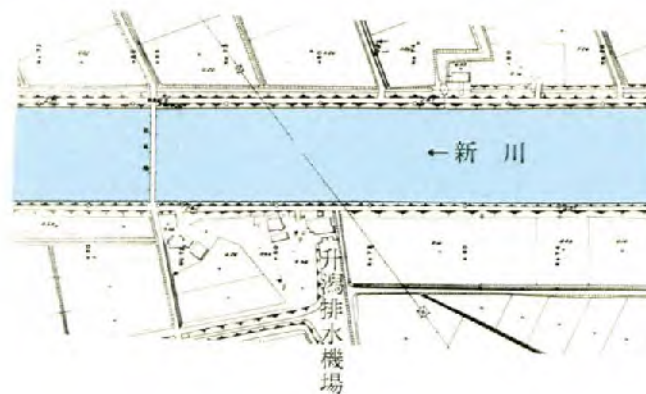
新川中流部



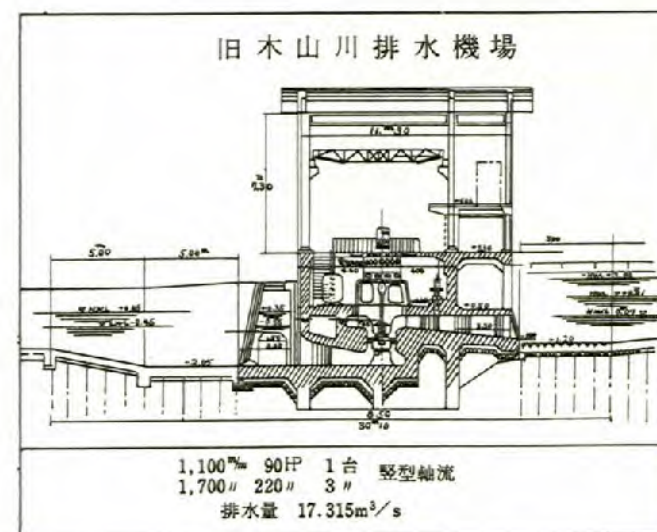
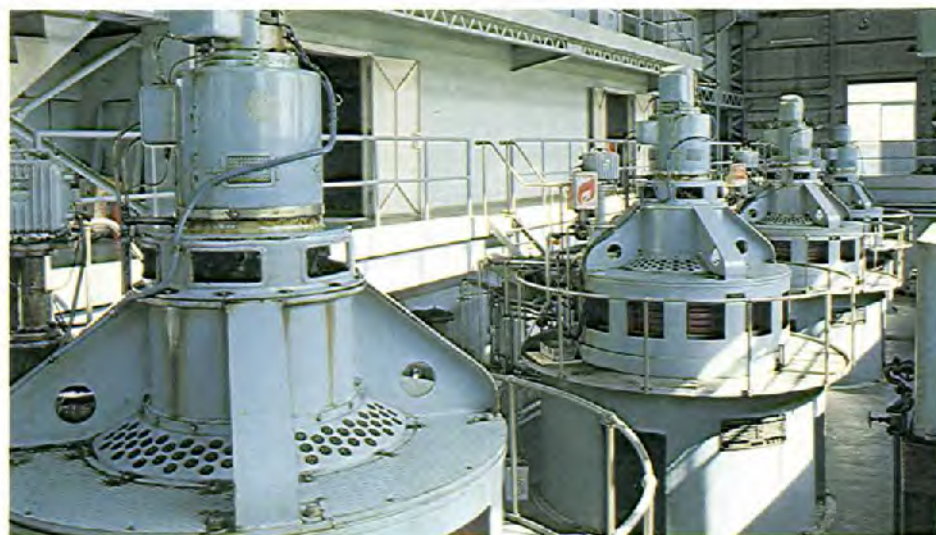
升潟



昭和53年度に竣工した升潟排水機場



旧木山



鎧潟の干拓

鎧潟は、西蒲原平野のほぼ中央に位置し、昔から「田潟」「大潟」と併せて「三潟」といわれ、大通川、新木山川、飛落川が流入していた。新川農業水利事業によって、大通川、新木山川の付替が行われたことにより、昭和33年、国営鎧潟干拓事業の着工、同43年に潟の全面干拓が竣功した。「大潟」「田潟」につき「鎧潟」もなくなり「三潟」がすべて消滅したのである。



干拓記念公園

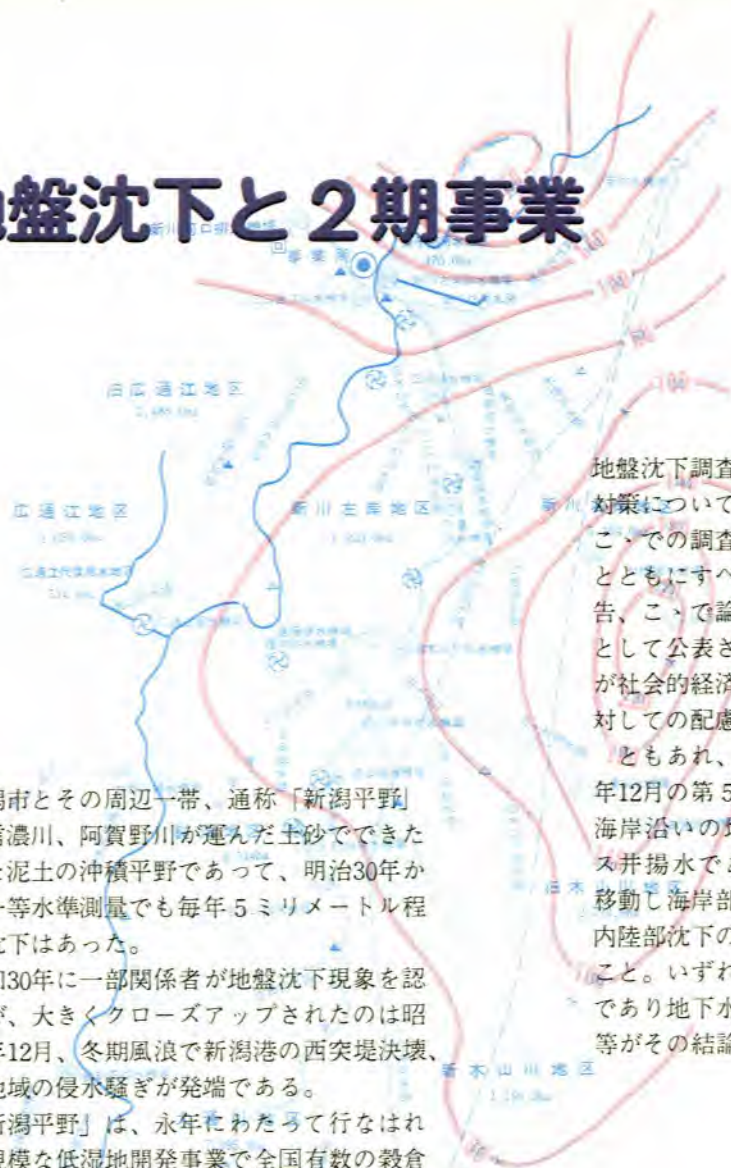


鎧潟排水機場



興農館高校展望台より干拓地を望む

地盤沈下と2期事業



新潟市とその周辺一帯、通称「新潟平野」は、信濃川、阿賀野川が運んだ土砂でできた柔軟な泥土の沖積平野であって、明治30年からの一等水準測量でも毎年5ミリメートル程度の沈下はあった。

昭和30年に一部関係者が地盤沈下現象を認めたが、大きくクローズアップされたのは昭和31年12月、冬期風浪で新潟港の西突堤決壊、臨港地域の侵水騒ぎが発端である。

「新潟平野」は、永年にわたって行なわれた大規模な低湿地開発事業で全国有数の穀倉地帯となっているが、地盤沈下はその基盤を根底から覆すものであり、最大の被害者は農地であった。昭和33年金沢農地事務局（現北陸農政局）の手で調査が開始されたが、地盤沈下の原因論は、この地方の社会的経済的な問題に発展したため、昭和35年6月、新潟市に

地盤沈下調査事務所を設置し、原因の究明と対策についての専門的な調査が始められた。こゝでの調査結果は、他省庁関係機関の資料とともにすべて科学技術庁資源調査会に報告、こゝで論議されたものが資源調査会報告として公表されている。地盤沈下の原因帰結が社会的経済的に大きな影響を与えることに對しての配慮であろう。

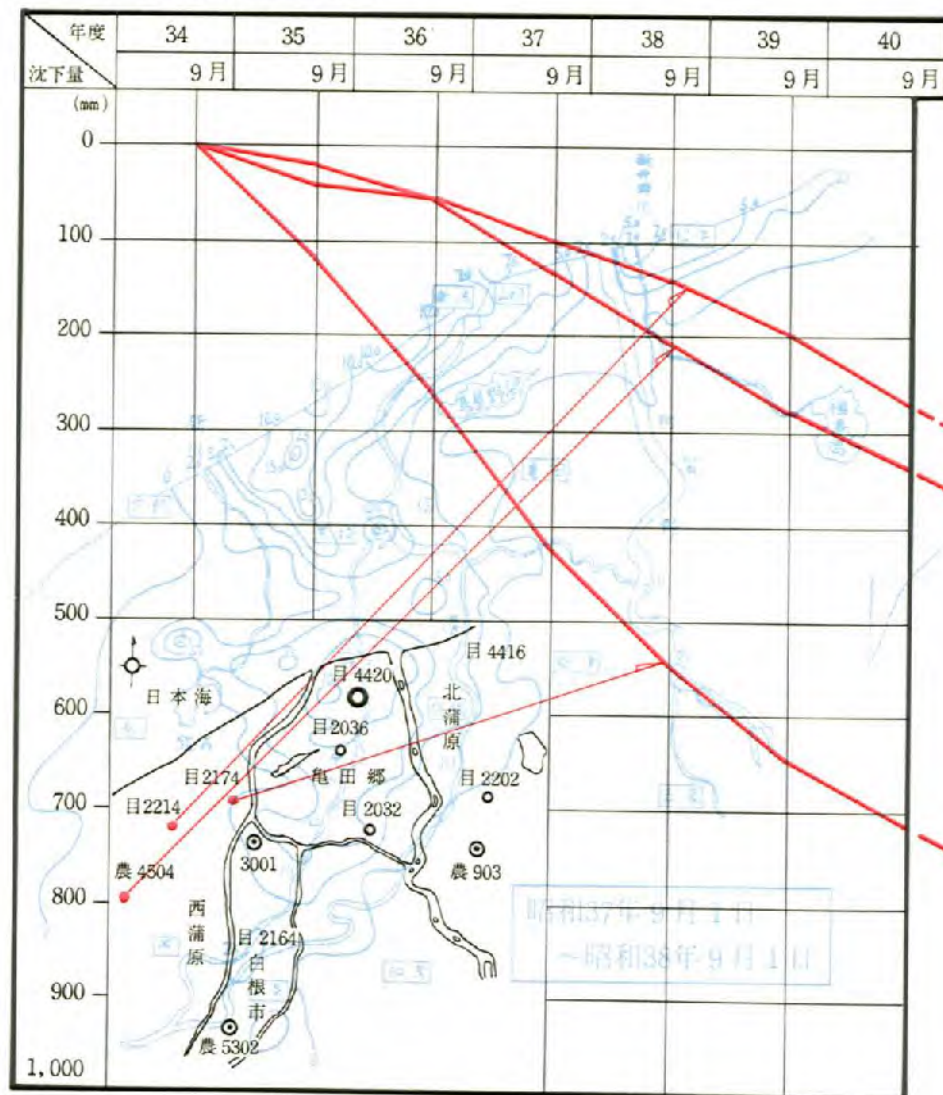
ともあれ、地盤沈下の原因問題は、昭和39年12月の第5次報告で一応の終止符が打たれ、海岸沿いの地盤沈下の主要因は、鉦業用ガス井揚水であること。沈下の中心は西方に移動し海岸部の沈下は緩和の傾向にあること。内陸部沈下の原因はいずれとも断定できないこと。いずれにしても沈下を起しやすい地質であり地下水の利用には充分考慮を払うこと等がその結論である。

原因究明の調査と併行して、国の助成をうける「新潟地域特殊排水事業」として、沈下対策が新潟県によって実施された。30年代前半は沈下原因が解明されない状態であったため応急対策の域を出なかったが、その後、沈下機構の解明につれ、ガス採取規制等の防止措置が講ぜられて沈下漸減の傾向を示したことを踏まえ恒久対策事業に移行した。

西蒲原地区については、昭和39年「新川河口に排水機場を設け、新川の水位を低下せしめて国営基幹施設の機能低下を防止する」恒久対策事業計画を樹立したが、大蔵省との折衝過程において、新川農業水利事業の2期として国営により施行することになったものである。



代表的水準点の沈下量



新川 2 期事業計画で
推定した地盤沈下目
標年度



昭和50年

昭和33年9月1日
～昭和34年9月1日

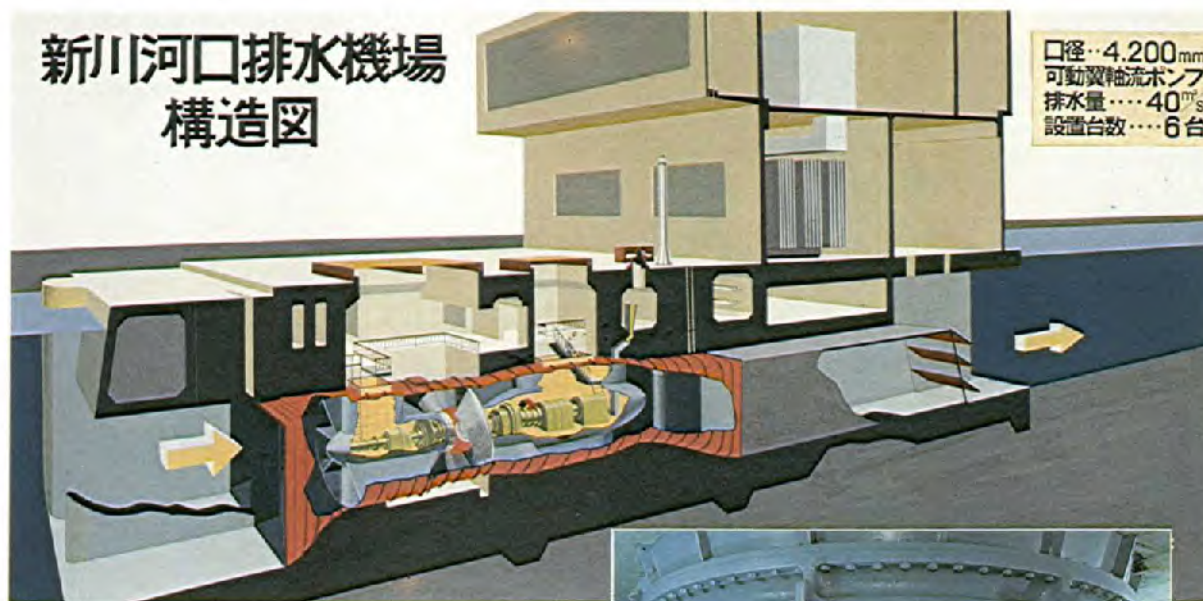
河口排水機場







新川河口排水機場 構造図



口径…4,200mm
可動翼軸流ポンプ
排水量…40^{m³}/s
設置台数…6台

ポンプの規模と能力

口 径 : 4,200mm 横軸円筒型可動翼軸流ポンプ…6台

排水量 : $40 \text{ m}^3/\text{sec} \times 6 = 240 \text{ m}^3/\text{sec}$

電動機 : 1,300KW/台



ポンプの胴体部（内径4,200mm）



ポンプの羽根車

28,300haの新川流域から排水される「塵芥」の焼却場



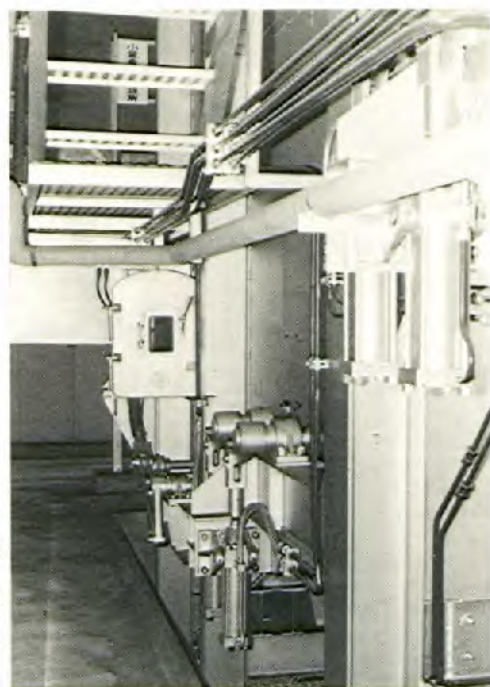
機場公園

焼却場の諸元

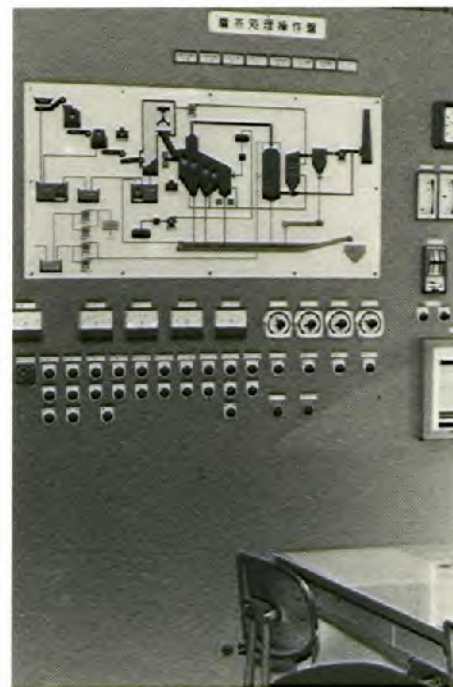
処理能力：20t/日

施設の内容

- 供給コンベヤー……エプロンタイプ
- 破 碎 機 ……シュレッダータイプ
- 脱 水 機 ……ロール プレス タイプ
- 貯溜ピット ……2日分、70m³
- クレーン ……天上走行型
- 焼 却 炉 ……反転ストカー方式
- 集 塵 装 置 ……マルチサイクロン
- 硫黄酸化物測定装置
- 汚水浄化施設
- 風向風速計



焼
却
炉

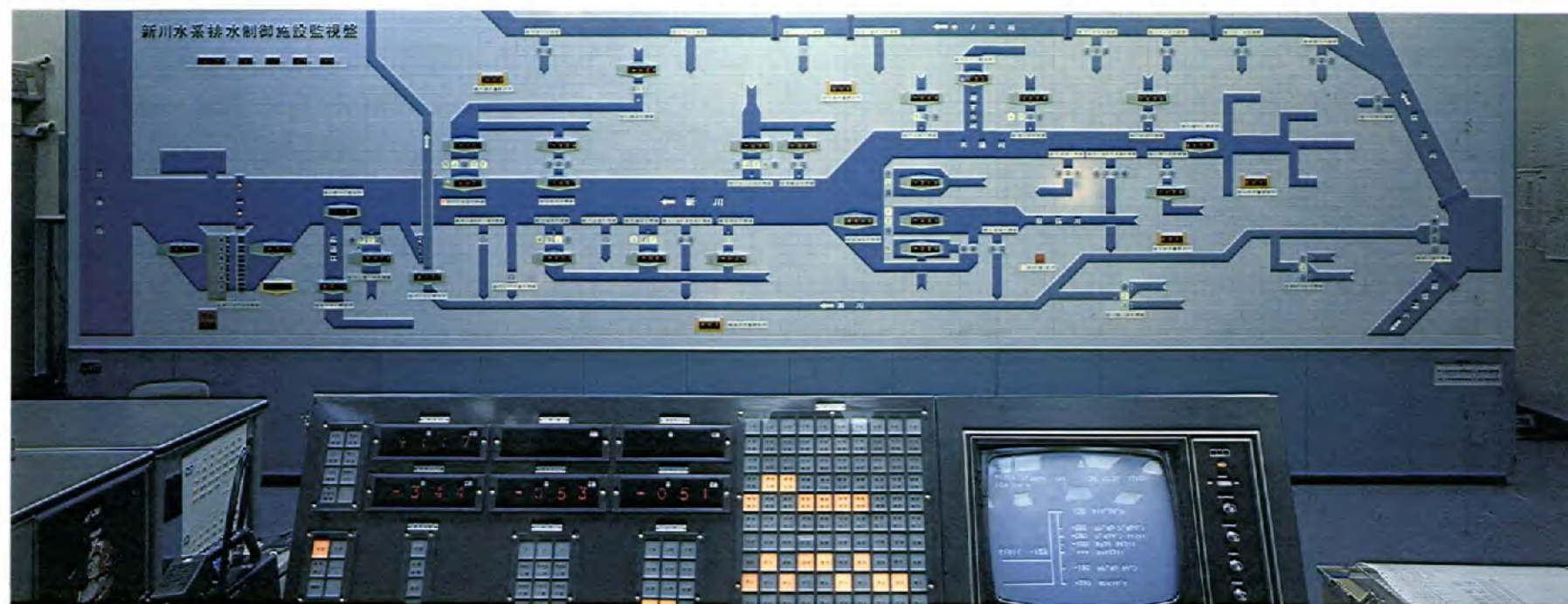


[illegible]

制御項目	機	能	説	設
A 級	① 中央局からの呼出し又は自動立上りにより監視項目、計測項目の伝送を行う。 ② 制御指令が機場の制御盤に表示され、その制御操作は人間が各機器を操作する。	① 中央局からの呼出し又は自動立上りにより監視項目、計測項目の伝送を行う。 ② 制御指令が機場の制御盤に表示され、その制御操作は人間が各機器を操作する。	① 中央局からの呼出し又は自動立上りにより監視項目、計測項目の伝送を行う。 ② 制御指令が機場の制御盤に表示され、その制御操作は人間が各機器を操作する。	7 排水機場
B 級	① 中央局からの呼出し又は自動立上りにより監視項目、計測項目の伝送を行う。 ② 制御指令が機場の制御盤に表示され、その制御操作は人間が各機器を操作する。	① 中央局からの呼出し又は自動立上りにより監視項目、計測項目の伝送を行う。 ② 制御指令が機場の制御盤に表示され、その制御操作は人間が各機器を操作する。	① 中央局からの呼出し又は自動立上りにより監視項目、計測項目の伝送を行う。 ② 制御指令が機場の制御盤に表示され、その制御操作は人間が各機器を操作する。	8 排水機場 8 排水機場 8 排水機場
C 級	① 中央局からの呼出し又は自動立上りにより監視項目、計測項目の伝送を行う。 ② 制御指令が機場の制御盤に表示され、その制御操作は人間が各機器を操作する。	① 中央局からの呼出し又は自動立上りにより監視項目、計測項目の伝送を行う。 ② 制御指令が機場の制御盤に表示され、その制御操作は人間が各機器を操作する。	① 中央局からの呼出し又は自動立上りにより監視項目、計測項目の伝送を行う。 ② 制御指令が機場の制御盤に表示され、その制御操作は人間が各機器を操作する。	9 排水機場 9 排水機場 9 排水機場
D 級	① 中央局からの呼出し又は自動立上りにより監視項目、計測項目の伝送を行う。 ② 制御指令が機場の制御盤に表示され、その制御操作は人間が各機器を操作する。	① 中央局からの呼出し又は自動立上りにより監視項目、計測項目の伝送を行う。 ② 制御指令が機場の制御盤に表示され、その制御操作は人間が各機器を操作する。	① 中央局からの呼出し又は自動立上りにより監視項目、計測項目の伝送を行う。 ② 制御指令が機場の制御盤に表示され、その制御操作は人間が各機器を操作する。	8 排水機場 9 排水機場 9 排水機場

制御・管理 レベル	機 場 名	流域面積 (ha)	ポ ン プ					
			形 式	口径(φ)	揚程(m)	揚水量(m³/s)	台 数	総揚水量(m³/s)
A	新田川河口排水機場	28.285	横型可変負軸流	4,200	2.40	40.00	6	240.00
	新田川河口排水機場	2.488	型 斜 流	1,700	1.45	4.00	3	12.00
	新田川河口排水機場	5.494	型 斜 流	1,340	0.60	6.30	3	30.50
	田 沼 排水機場	1.137	横 型 軸 流	1,200	2.06	3.20	1	10.70
			+	1,000	3.00	2.25	1	
			+	800	3.00	1.25	1	
			+	1,350	3.00	4.00	1	
			+	1,200	3.10	3.26	3	9.78
	貝 戸 排水機場	1.710	+	800	3.00	1.25	2	2.50
	山 崎 排水機場	2.770	縦型可変負軸流	1,100	1.95	2.21	1	22.46
B	曾 根 排水機場	360	横 型 斜 流	1,700	2.21	5.05	3	
	曾 根 排水機場	196	横 型 軸 流	1,500	2.23	5.10	1	
	曾 根 排水機場		横 型 斜 流	800	3.00	1.33	1	1.33
	曾 根 排水機場		横 型 斜 流	700	3.80	0.83	1	1.36
	曾 根 排水機場		横 型 斜 流	500	3.80	0.43	1	
	曾 根 排水機場	2,959	縦 型 斜 流	800	4.70	1.41	1	28.63
			+	900	4.80	1.80	1	
			横 型 軸 流	1,200	4.90	3.24	1	
			+	1,100	3.10	2.76	1	
			+	1,600	3.10	6.12	2	
C	今 井 排水機場	110	+	900	3.00	1.68	1	
			+	1,500	3.20	4.90	1	
			+	600	3.20	0.60	1	
			+	400	3.45	0.34	2	1.45
	今 井 排水機場		横 型 斜 流	600	3.45	0.77		
	山 崎 排水機場	475	横 型 軸 流	800	3.15	1.45	2	3.28
			+	400	3.55	0.38	1	
	打 越 排水機場	423	+	1,000	2.85	2.17	1	3.17
			+	700	2.85	1.00	1	
	佐 渡 排水機場	519	+	800	1.98	1.17	1	3.74
D	佐 渡 排水機場		+	1,100	2.19	2.57	1	
	七 穂 排水機場	304	+	800	1.70	1.20	1	1.97
			+	700	2.00	0.77		
	六 間 口排水機場	718	横 型 斜 流	1,100	2.10	2.61	1	4.61
			横 型 斜 流	500	2.70	0.45	1	
			+	900	2.70	1.55	1	
	新 田 田 排水機場	1,750	横型可変負軸流	1,500	2.20	4.00	1	10.42
			+	1,500	2.20	4.00	1	
			+	1,200	2.20	2.42	1	
			+					
E	西川下流排水機場		横 型 斜 流	1,300	3.40	3.50	1	3.50
	井 上 排水機場		+	700	4.40	0.83	1	0.83
	矢 野 排水機場	2,000	横 型 斜 流 専 用	1,000	6.50	2.20	2	4.40
	大 通 排水機場	286	横 型 斜 流	200	2.65	0.08	1	1.61
			横 型 軸 流	550	3.35	0.58	1	
			+	700	3.30	0.95	1	
	西川越給水大通排水機場	1,500	縦 型 斜 流	900	12.80	1.73	4	6.92
	西川越給水機場	10,920	横 型 斜 流 専 用	2,000	1.70	7.88	4	31.52
	西川越給水機場	1,060	横 型 斜 流 専 用	1,000	16.00	2.30	2	4.60
	西川越給水機場	490	横 型 斜 流 専 用	1,000	4.50	2.10	1	2.10

計画・管理 レベル	施設名	計画・管理 レベル	施設名
D 級	富貴宮富貴宮富貴宮 樋樋樋樋樋樋樋樋 水水水水水水水水 用水用水用水用水 場方ツケツケ池 水味園記八六新小	D 級	所所所所所所所所 湖湖湖湖湖湖湖湖 親親親親親親親親 量量量量量量量量 市市市市市市市市 場場場場場場場場 堤堤堤堤堤堤堤堤 根根根根根根根根 野野野野野野野野 戸戸戸戸戸戸戸戸 井井井井井井井井 椿椿椿椿椿椿椿椿 木木木木木木木木 曾曾曾曾曾曾曾曾 友友友友友友友友 和和和和和和和和 板板板板板板板板 内内内内内内内内 本本本本本本本本 西西西西西西西西

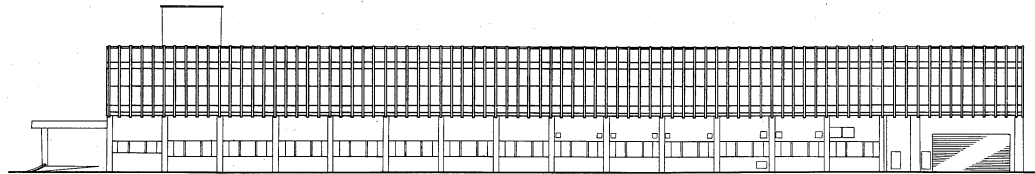


操 作 室

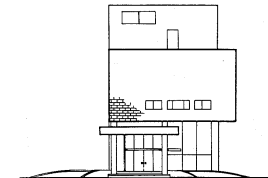


システムの心臓（コンピューター室）

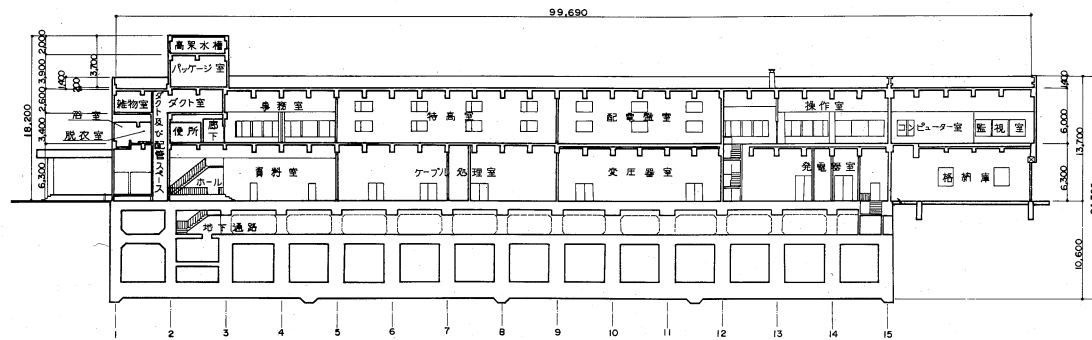
新川河口排水機場上屋構造図



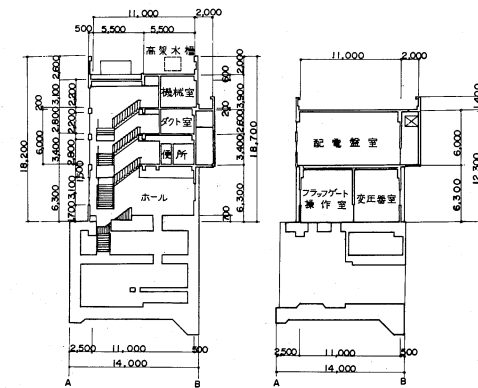
南側立面図



西側立面図

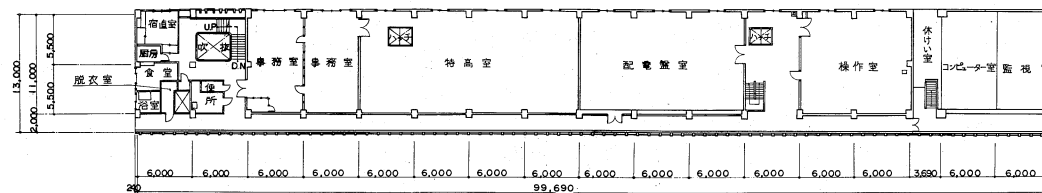


断面図



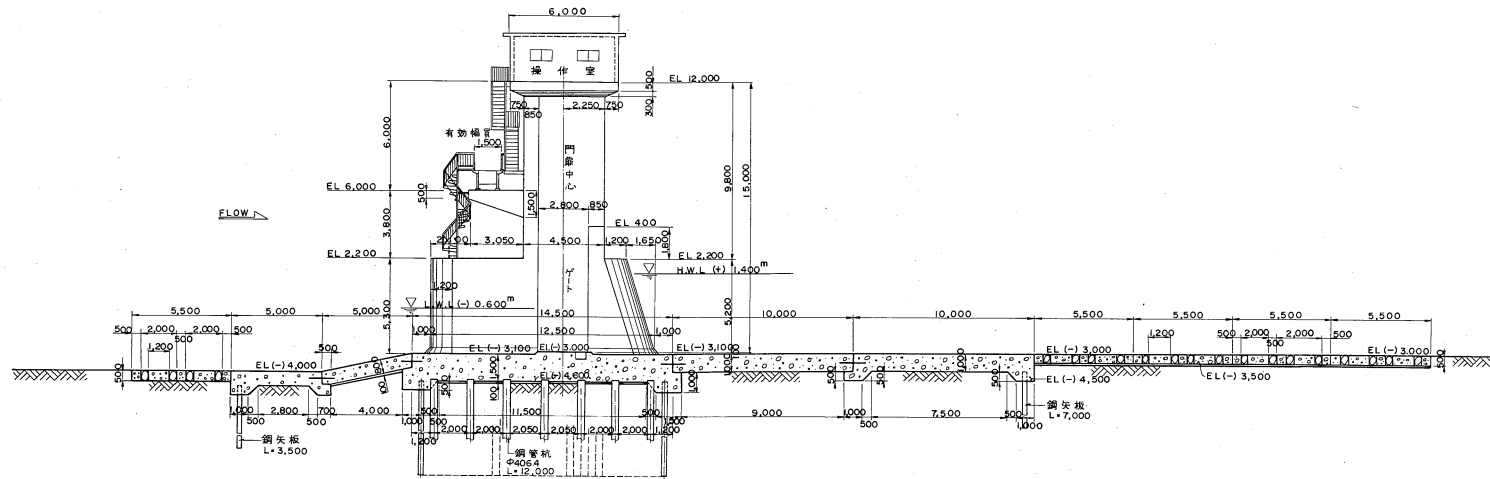
断面図

断面図



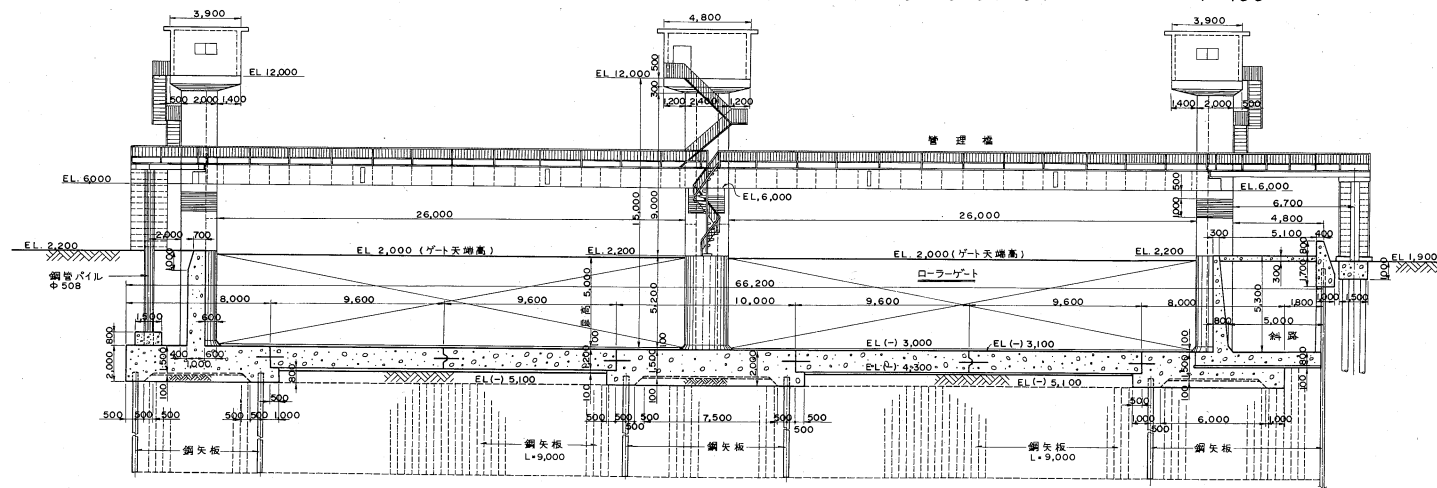
2階平面図

新川河口排水機場自然排水樋門断面図

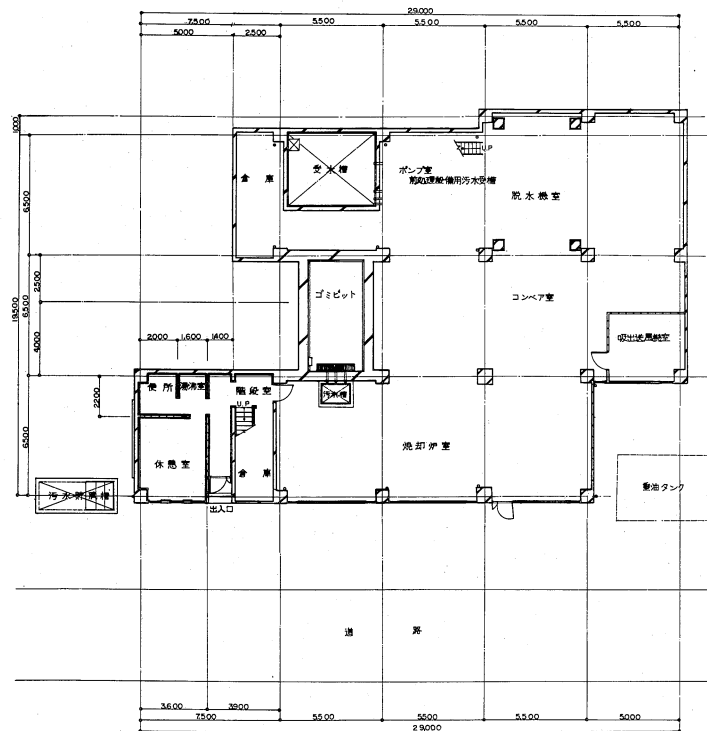


新川河口排水機場自然排水樋門断面図

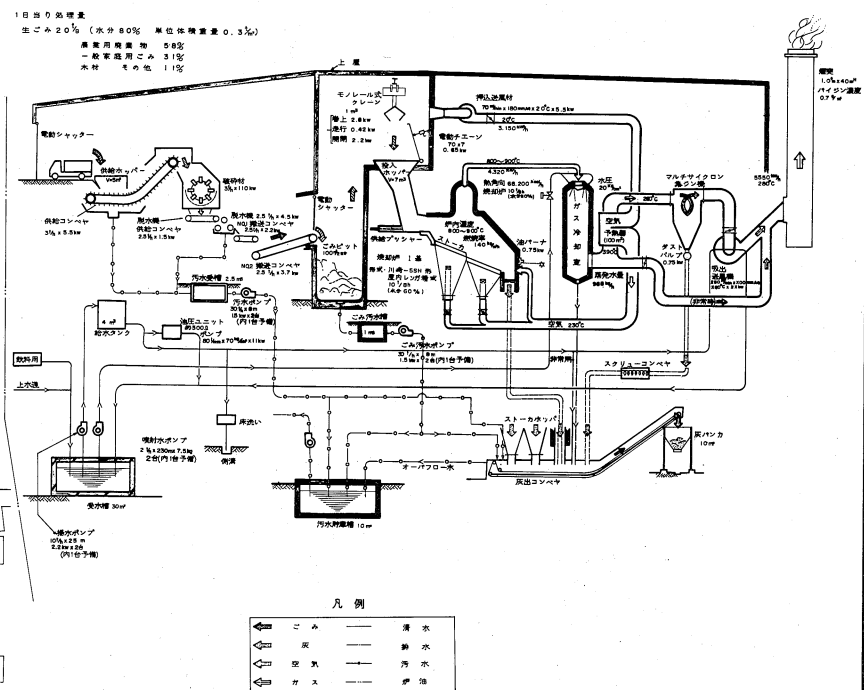
縮尺 1:100



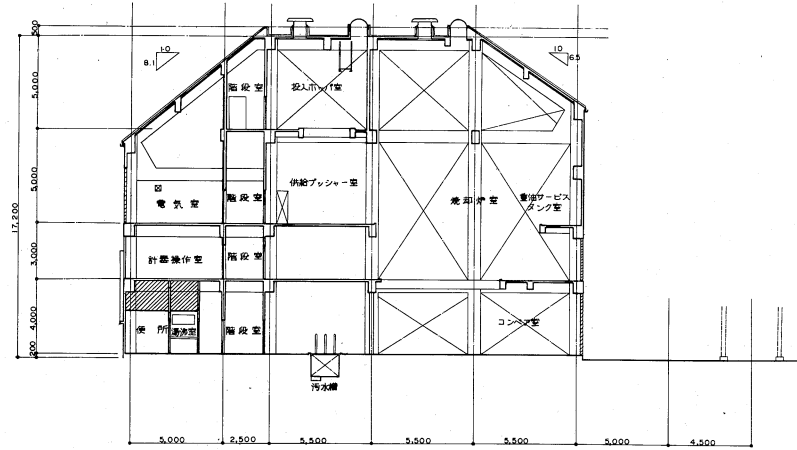
塵芥處理施設平面図
(1階)



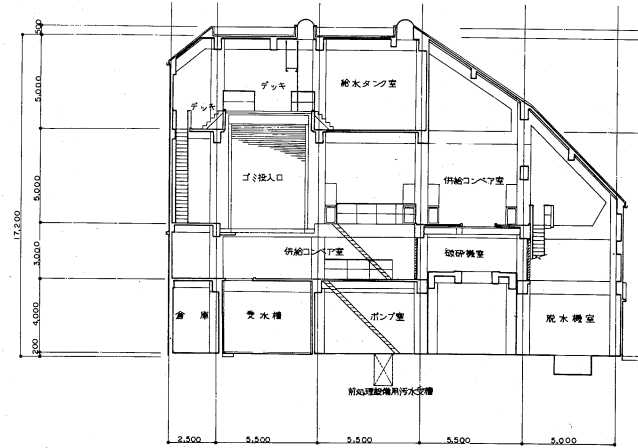
塵芥処理施設 フローシート
(20th日 x 1基)



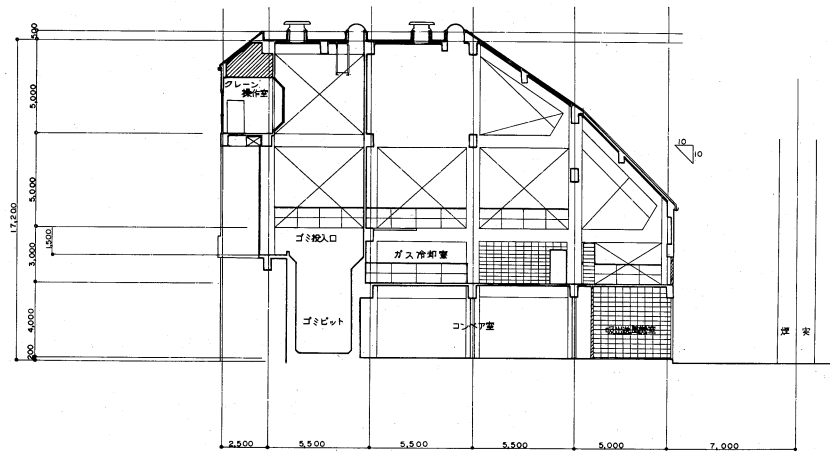
廢芥処理施設断面図



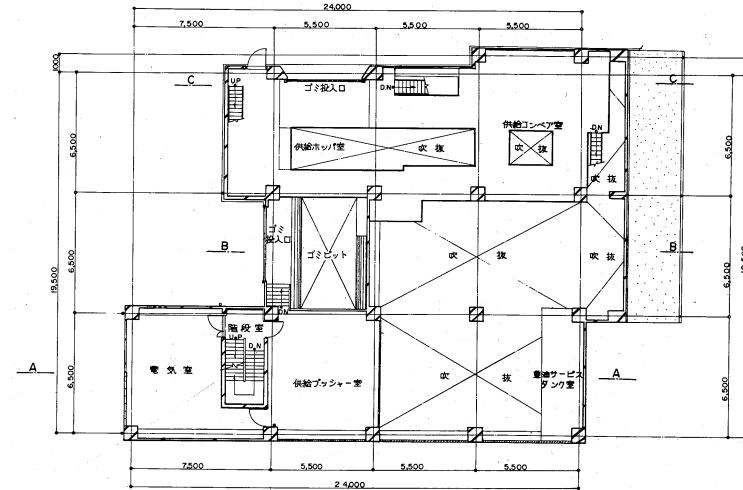
A-A 断面図



C-C 断面図



B-B 断面図



平面図(3 階)

事業のあゆみ

年	号	記	事	背	景
昭和20年	1945	農地開発営団事業発足（10月）、田湯、升湯、曾根排水機場着工		農地改革の実施	
昭和21年	1946				
昭和22年	1947	農地開発営団閉鎖（9月）、農林省国営農業水利事業として引継がれる。			
昭和23年	1948	田湯、升湯、曾根排水機場竣工		「土地改良法」の制定 朝鮮戦争勃発 「積寒法」の制定 「農地法」の制定 食料増産対策事業（5ヶ年計画）の実施 1兆円予算 国営附帯県営かんばい事業の新設	
昭和24年	1949	新川右岸、旧広通江排水機場着工			
昭和25年	1950				
昭和26年	1951	国営新川農業水利事業の土地改良法による事業計画手続完了、西蒲原土地改良区設立（4月）			
昭和27年	1952				
昭和28年	1953				
昭和29年	1954	西川水路橋着工（4月）、旧木山川排水機場着工			
昭和30年	1955	西川水路橋竣工（10月）			
昭和31年	1956	皇太子殿下西川水路橋御視察（7月）			
昭和32年	1957	新川右岸排水機場竣工			
昭和33年	1958	国営鎧渚干拓建設事業着工（4月）		「特定土地改良工事特別会計法」の制定 「農業基盤整備事業」へと名称変更、所得倍増計画 「農業基本法」の制定	
昭和34年	1959				
昭和35年	1960	新潟地盤沈下調査事務所設置（6月）、旧広通江、旧木山川排水機場竣工			
昭和36年	1961	国営新川農業水利事業の事業計画変更確定（第1回）、特定土地改良事業特別会計に指定（7月）			
昭和37年	1962	新川右岸排水機場を新潟県へ管理委託（8月）			
昭和38年	1963				
昭和39年	1964	新潟地震発生（6月）			
昭和40年	1965				
昭和41年	1966				
昭和42年	1967	国営新川農業水利事業の事業計画変更確定（第2回）、国営新川2期農業水利事業着工、新川河口排水機場着工（4月）			
昭和43年	1968	国営鎧渚干拓建設事業完了（9月）		「第1次土地改良長期計画」の制定 「都市計画法」の制定 「新全総」「農振法」の制定 水田転換特別対策事業の創設 「土地改良法」の大幅改正 「第2次土地改良長期計画」の作成 「農産物の需要と生産の長期見通し」閣議決定 水田総合利用対策 水田利用再編対策	
昭和44年	1969				
昭和45年	1970				
昭和46年	1971	新川河口排水機場通水式挙行（4月）			
昭和47年	1972	新川河口排水機場自然排水樋門完成（3月）、新川水系排水制御装置着工（4月）			
昭和48年	1973	新川河口排水機場竣工、新川水系排水制御装置竣工、国営新川農業水利事業の事業計画変更確定（第3回）			
昭和49年	1974	新川河口排水機場新潟県へ管理委託（1月）、国営新川農業水利事業（既定事業）完了（3月）、新川水系排水制御装置新潟県へ管理委託（4月）			
昭和50年	1975				
昭和51年	1976	新川河口排水機場農芥処理施設完成（9月）			
昭和52年	1977				
昭和53年	1978	国営新川2期農業水利事業計画変更確定（第2回）			
昭和54年	1979				
昭和55年	1980	国営新川第2期農業水利事業完了予定（3月）			

明日の西蒲原

今日も弥彦山が聳えたつ。かつて、弥彦山が見た数多くの濁も今はない。新川農業水利事業の完工を機に、土と水を相手にくり広げられた永い永い苦斗の歴史を振り返るとき、そこに生き、そこに働いた人々の土への愛着と、水に対する叡智がひしひしと身に迫る。新川農業水利事業は、一粒でも余計に米を獲りたい願望と努力の延長上にあつて、「開濁」も「鑑濁」も精誠きせ、西蒲原は日本有数の穀倉地帯となつた。

長い歴史の一コマとして「新川農業水利事業」という名の土地改良事業は完工したが、広大を西蒲原の平野がそこにある限り、米

永劫土地は改良を求めつゝける。米が余るといわれて10年に近く、稲作農業は曲り角を通りすぎて、より高度な水との闘いが始まっている。かつての「濁」をなくする闘いを更に押し進めて土中の水まで追い出さなければならぬ。

食糧事情がどのように変わろうと、西蒲原平野が日本有数の農業地域であることに変わりなく、新しい西蒲原のために、新たな水との闘いは今日から始まるのである。

弥彦山は明日も、そこに生き、そこに働く人々と、四季それぞれの豊かさを後ろを見つづけるのであろう。







あとがき

想えば西蒲原平野は、文化文政の世に土地の先覚者伊藤五郎左衛門等10数名の割元、庄屋たちによる、悪水抜堀割普請、により新川と悪水堀（後の新川）との立体交差による底樋の設置、更に内野全蔵等が日本海砂丘地を掘鑿し直接流下させた一大偉業により始まる。

以来この新川は立体交差による底樋が網となり降雨による増水期には上流部で堤防を溢水氾濫し、地域一帯に洪水はあられ増水することが常であり、水害に襲われる日は言語に絶するものであったといわれています。

明治以後は、何回かの度重なる水害の時、この暗闇の修復や底樋から石樋へと堅固にする一方断面的排水路を計り改良事業を実施して来たものであります。昭和20年より着手した新川水系全域の排水事業は、明治新川

排水事業を基幹とした各種附帯関連事業と併行して実施されて来ました。

事業は、西川を遂に近代化的排水を導入した水路橋とし、新川暗闇は撤去する旨の案を立案し、もはや河川にはこの種の施設では世界に誇る新川河口大排水機橋が設置されました。また、流域内において町会・区単位に排水施設を設置し、新川水系一帯の大排水施設が完成され、これ等施設の機能とよけを積極的に営理する施設、河口暗闇内に排水制御施設を導入したことは、河口暗闇設置と併せて特筆すべき一大功業であると思えます。

今日まで新川水系の改善、地内内容を支川の改修整備、低地帯の排水機場の設置等のほか、西蒲原平野の土地基盤整備のため、各種事業が集中的にしかも、長年に亘り継続して実施された結果、今日では、昔の姿を物語る

ものはその影を消し、湖沼や葦沼の繁茂する荒廢した地であったとは何人も想像がつかぬ程の豊田と壮し近代農業の繁栄が見られるようになったと変われます。

本事業の完成は、直接工事に従事した事業所職員の方々は勿論ですが、それにも増して諸先輩各位並びに西蒲原土地改良区関係各位の御指導と御協力の賜と深く感謝の意を表する次第であります。

次に、事業を閉するに当たり、西蒲原の移り変わりを表わす記録と事業経過のその時々思い出を記念して集録いたしましたもので、何かの御参考あるいは思い出の一端としていただければ幸と存じます。

昭和54年11月

北陸農政局新川農業水利事業所長

清水 登

—非 売 品—

国 営 新 川 農 業 水 利 事 業
完 工 記 念

編集及 北 陸 農 政 局
発行所 新川農業水利事業所

印刷所 精巧印刷株式会社